

地方独立行政法人山梨県立病院機構 第2回理事会 議事録

1 日 時 平成30年10月3日(水) 午後4時00分～午後4時50分

2 場 所 県立中央病院 2階 理事長室

3 出席者 理事長 小俣政男

理 事 神宮寺禎巳、宮田量治、内藤正浩

監 事 加藤隆博、柴山聡

(欠席者 なし)

(出席者 理事長・理事 計4名。今理事会は定足数を満たし成立した。)

4 会議次第

(1) 理事長あいさつ

(2) 議 事

(3) 報 告

議 事)

規程(案)について

○議 長

初めに、規程(案)について説明願います。

○事務局

—規程(案)について説明—

資料1 山梨県立中央病院計量管理規程

検査部で保管している酢酸ウラニウムの適正な計量管理を行うため、「山梨県立中央病院計量管理規程」を制定する。

施行期日は原子力規制委員会の認可の日からとする。

資料2 使用料及び手数料規程

自己の血液から抽出して得られる多血小板血漿(PRP)を患部へ注射する治療法について料金設定を行うため、「使用料及び手数料規程」の一部改正を行う。

施行期日は平成30年11月1日からとする。

○加藤監事

資料1について、酢酸ウラニウムが発見された経緯や保管方法について伺いたい。

○事務局

この試薬は昭和40年代に製造されたものと推定されている。検査部内の古い試薬を整理した際に発見されたものであり、金庫に施錠して保管している。

○神宮寺理事

建て替え前の旧病院内に電子顕微鏡があり、陰性染色するための試薬として使用していたものである。平成13年の新病院移転時に電子顕微鏡は廃棄した

ため、現在は使用していない。

○加藤監事

現有品の確認や棚卸等については、今後も継続的に適正な管理を行ってほしい。

○柴山監事

資料2について、手数料算出に係る原価計算に遠心分離機のメンテナンス料等を含める必要はないか。

○事務局

修繕等が必要となる場合も考えられるが、継続的な保守料等は発生しないため、原価計算に含めていない。

○柴山監事

了解した。

採決の結果、理事等から異議がなく、原案のとおり可決された。

平成31年度予算編成要領（案）

○議長

次に、平成31年度予算編成要領（案）について説明願います。

○事務局

—平成31年度予算編成要領（案）について説明—

資料3により、平成31年度の予算編成に係る基本的事項、収入、支出、経常利益、消費税率の引き上げに関する対応等について説明を行った。

○加藤監事

病院は消費税の最終消費者としての取引が多いため、消費税率引き上げに伴う影響が大きいのと思われるがいかがか。

○事務局

消費税の課税対象となる取引は薬品費、診療材料費、委託料等、年間100億円超となるため、消費税率引き上げに伴う影響額は年間ベースで2億円を超えるものと見込んでいる。

採決の結果、理事等から異議がなく、原案のとおり可決された。

報告)

評価委員会による業務実績評価

○議長

次に、平成29年度の業務実績評価について説明願います。

○事務局

—平成29年度業務実績評価についての説明—

資料4により、平成29年度の業務実績評価についての説明を行った。

全体評価としては、「平成29年度の中期計画の実施状況は優れている」と評価された。

項目別評価は、昨年度と比較して「優れている（A）」が1件増、「順調である（B）」が2件減、「劣っている（C）」が1件増となった。

○柴山監事

「劣っている（C）」と評価された薬剤管理の現況について伺いたい。

○神宮寺理事

薬剤の管理については、県に提出した改善計画を着実に実施するとともに、他病院の取り組み事例なども取り入れながら、現在進行形で更なる改善に取り組んでいるところである。

中央病院及び北病院の稼働状況

○議長

次に、各病院の稼働状況について説明願います。

○神宮寺理事

—中央病院稼働額等の説明—

入院・外来稼働額は、各月とも経年的に伸びており、前年同月比較の累計で3億1,844万円増となった。入院収益稼働額は平成30年8月に過去最高額11.30億円を記録した。外来収益稼働額も右肩上がりとなっている。

平均在院日数は12.3日であるが、11日台に短縮できるよう目指していきたい。

新規入院患者数は、前年同月比較の累計で106人増となった。長期的には、新規入院患者数、延べ入院患者数、延べ外来患者数については横ばいとなっている。初診外来患者数は低下傾向にあったが、今年度に入り増加傾向に転じている。

1日あたりの平均単価は、入院・外来とも堅実に推移しており、入院は平成30年8月に過去最高額74,355円を記録した。

○宮田理事

—北病院稼働額等の説明—

入院・外来稼働額は、前年同月比較の累計で2,224万円増となり、ほぼプラスで推移している。昨年度まではジェネリック化を進めてきたことにより収入面ではマイナスの影響があったが、こうした取り組みが一巡したため、今年度は薬価の影響は少ない。一方で、医療観察法病棟に空床が多くなってきており、収入面ではマイナスの影響が生じている。ただし、治療という面では入院患者が少ないことが望ましいため、空床となること自体は悪いこ

とではないと考えている。

入院収益稼働額、外来収益稼働額とも昨年度とほぼ同じ状況であるが、児童・思春期精神科入院医療管理加算等が若干ではあるものの稼働額の増加に寄与している。

平均在院日数は70日台後半で推移しており、昨年度よりも増加しているが、今後は60日台を目指していきたい。

初診外来患者数が長期的にやや右肩上がりとなっているが、北病院は初診を含め完全予約制となっているため、今後は月平均80人前後で横ばいに推移していくと思われる。

その他)

○司 会

最後に、次回理事会の日程について、お諮りしたい。

平成30年12月18日火曜日の17時からということによろしいか。

以上をもちまして、平成30年度第2回理事会を終了とする。